

レセプト・健診情報等を活用したデータヘルスの推進事業 公募説明会

2018年5月
厚生労働省保険局保険課

高齢者医療運営円滑化等補助金について

- 本公募事業は、平成30年度 高齢者医療運営円滑化等補助金における「レセプト・健診情報等を活用したデータヘルスの推進事業」として実施する。
- 本事業の実施にあたっては、「高齢者医療運営円滑化等補助金交付要綱」ならびに公募要領の定めによるものとする。

平成30年度 高齢者医療運営円滑化等補助金



被用者保険運営円滑化推進事業費



レセプト・健診情報等を活用したデータヘルスの推進事業



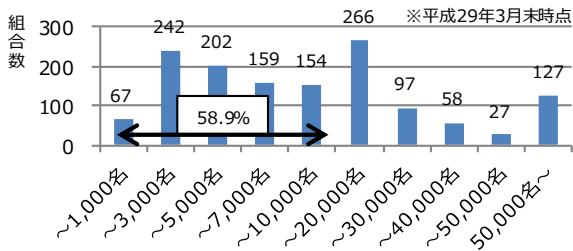
平成30年度 保健事業の共同実施に関するモデル事業
(本公募事業)

保健事業の共同実施に関するモデル事業

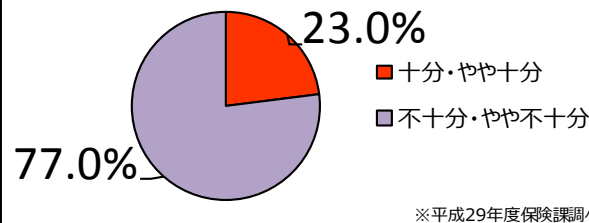
(平成30年度 レセプト・健診情報等を活用したデータヘルス推進事業)

- 健康保険組合の半数以上は加入者1万人未満の中小規模の保険者であり、その多くが保健事業を十分に行えていない。また中小規模の保険者はコストや事業規模の関係で、民間のヘルスケア事業者を活用した保健事業が難しいケースがある。
- 未来投資戦略2017を踏まえ、中小規模の保険者を含む保険者全体の機能強化や保健事業の効率化を推進するため、業種・業態等で共通する健康課題に対して、複数の保険者や民間のヘルスケア事業者等が連携して実施する、共同による保健事業のスキームを構築・展開する。

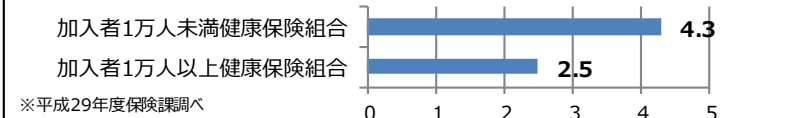
健康保険組合 規模別分布



加入者1万人未満の健康保険組合 保健事業の取組状況(n=1017)



加入者規模別1人当たり平均保健事業費

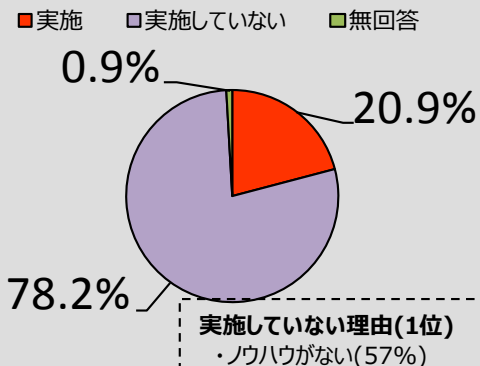


未来投資戦略2017

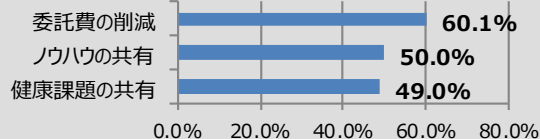
保険者による保険者機能発揮に向けた取組を強化するため、保険者機能の集約化による保健事業の再編を促すための共同実施モデルの整備等を行い、外部委託や民間事業者活用を促進する。

共同による保健事業の現状

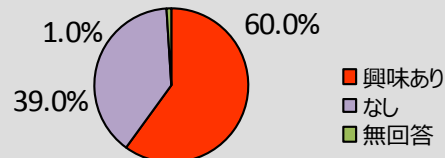
他の保険者と共同による保健事業の実施割合 (健康保険組合 n=1017)



共同で保健事業を実施する目的(上位3つ) (共同による保健事業を実施している健康保険組合 n=213)

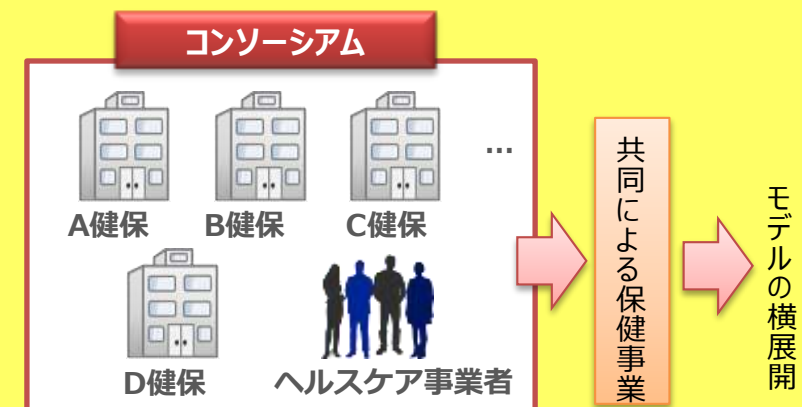


共同による保健事業への興味・関心 (共同による保健事業の存在を知っている健康保険組合 n=611)



事業のイメージ

保険者で共通する健康課題に対して共同で保健事業を実施



(例) 業種・業態や地域単位で共通する健康課題をもつ健康保険組合らで構成するコンソーシアム

目的

「未来投資戦略2017」では、保険者による保険者機能発揮に向けた取組を強化するため、保険者機能の集約化による保健事業の再編を促すための共同実施モデルの整備等を行い、外部委託や民間事業者活用を促進する方針が示されている。

本事業は、事業の効率化やコストの適正化に繋がる保健事業の共同実施モデルを構築し、中小規模の保険者を含む、保険者機能全体の強化、事業の効率化に資する取組を横展開することを目的とする。

事業内容

本事業の申請する組合は、民間のヘルスケア事業者等（大学、研究機関、健診機関等を含む）を含む複数の組合等からなるコンソーシアムを構成した上で、レセプト等ビックデータを分析し、地域や業種、業態、職種ごとの共通した健康課題の解決につながる保健事業を共同で実施する。また、共同実施の手順やノウハウ、留意点等を報告書としてまとめるなど、共同実施モデルの横展開に資する基礎資料を提出する。

応募要件

① 申請事業単位で事業運営委員会を設置し、定期的に事業運営委員会を開催すること。
事業運営委員会では、事業の進捗を共有する他、参加組合の健康課題や保健事業のノウハウなどを共有し、事業目的の達成に向けて、効果的・効率的な事業運営に努めること。

② コンソーシアムの構成メンバーには、複数の組合とヘルスケア事業者等（大学、研究機関、健診機関等を含む）が含まれること。また加入者10000 人未満の組合が占める割合を40%以上とすること。

(計算式)

$$\frac{\text{コンソーシアムに含まれる10000 人未満の組合の数}}{\text{コンソーシアムに含まれる組合の数}} \geq 0.4$$

- ③ 今年度一年間の実施のみならず、長期的に事業を継続する意思があること。
- ④ 事業実施、外部への事業委託等に当たっては、安全性に十分留意するほか、個人情報保護法等を遵守するなど加入者のプライバシーに十分配慮すること。
- ⑤ 事業運営委員会は、分析に資するアウトプット指標、アウトカム指標などのデータを適切に取得し、事業の実証およびモデルの提示を行うこと。

参考：2017年度 実施例

* 2017年度のすべての実施例は、5月中旬に厚生労働省ホームページにて公開予定です。

平成29年度「レセプト・健診情報等を活用したデータヘルスの推進事業」

～健保組合による保健事業の協働実施～

平成29年度 高齢者医療運営円滑化等補助金

- 日本再興戦略2016において、「保険者機能を発揮するのにふさわしい規模を確保できるよう、**保険者によるデータの集約・分析や保健指導の共同実施等を支援する**」とされており、事業の効率化やコストの適正化に繋がる協働事業を推進する。
- 複数の健保組合がコンソーシアムを組み協働事業を実施することで、効率的な保健事業モデルの横展開を図る。

◆採択事業一覧（申請のあった33事業から7事業を採択）

事業テーマ	採択事業 主幹健保組合	参加組合総数
加入者のヘルスリテラシー向上に向けた事業	ニチアス健康保険組合	7
	B I J 健康保険組合	20
I C T 等を活用した効果的・効率的な保健事業	すかいらーく健康保険組合	6
	古河電池健康保険組合	3
健康都市の創造支援事業	サノフィ健康保険組合	6
特定健診・特定保健指導の実施率向上に向けた事業	第一生命健康保険組合	6
	みずほ健康保険組合	5

古河電池健康保険組合の例

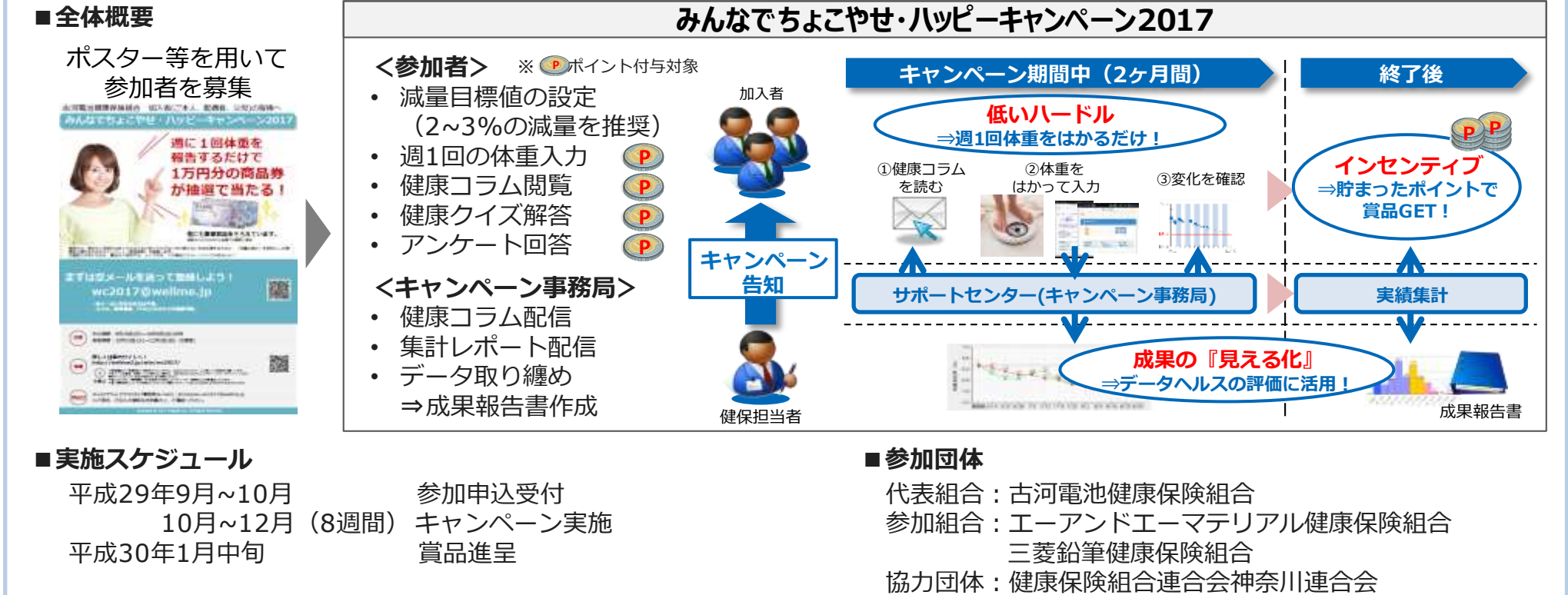
1. 事業の目的
- 目的1：ハードルの低いプログラムを用いた意識変容・行動変容
- 目的2：複数健保の協働実施による健保メリットの享受
- ①基本料等の固定費を共同で負担することによる費用の抑制

②複数健保の参加者総数で評価することによる事業評価の適正化

③他の健保と実績を比較できることによる成果及び課題の明確化

2. 事業内容

本事業は、健康に関心な層を主たるターゲットと設定し、継続のハードルが低い『週1回の体重計測でポイント（インセンティブ）を獲得』できることにより、参加者の意識変容・行動変容を狙うものです。



3. 主な結果・活動報告

■ 結果概要

参加者数 **329名**（男性211名：女性118名、平均年齢43.1歳）

継続率 **74%（242名）**

終了時アンケート ※回収率66%

意識変容状況

体重・BMIの変化

満足度

74%が
食習慣改善



74%が
運動習慣改善



73%が
減量に成功



12名が
BMI25以上から
脱出



98%が
満足と回答



99%が
また参加したい
と回答



■ 事業運営委員会による事業評価結果

◇アウトプット指標

第1回：平成29年8月31日



第2回：平成30年1月23日



指標	結果	評価
①参加者数	329名	◎
②継続者数	242名	○
③継続率	74%	○
④体重変化率	▲1.5%	○
⑤減量者率	73%	◎
⑥参加者満足度	98%	◎

◇アウトカム指標

指標	結果	評価
①意識変容率	食習慣 74% 運動習慣 74%	○
②肥満基準脱出者	12名	◎
③BMIランクごとの 人数変化	18.5未満 3→4名 18.5-25 156→167名 (+11名) 25-30 67→57名 30以上 16→14名	◎
④継続参加意思を 示した参加者の割合	99%	◎

4. 協働開発・実施のメリット

■ 健保のメリット

- ①基本料等の固定費を共同で負担することによる費用の抑制
- ②複数健保の参加者総数で評価することによる事業評価の適正化
- ③他の健保と実績を比較できることによる成果及び課題の明確化

■ 健保連神奈川連合会のメリット

- ①健保が保険者機能を強化するための具体的な支援策の提供
- ②県内健保を支援する手法としての「協働実施方式」の課題抽出

共同で保健事業を実施するメリット

参加組合対象アンケート（n=3）

Q:共同事業を実施してみて感じる、共同で実施する保健事業のメリットは何ですか。当てはまるものすべてを教えてください。

項目	選択した 健保数	特記事項 (健保のコメント)
1.委託費の削減	0/3健保	健保負担ゼロであったため当該項目についてはコメントが困難
2.他保険者と健康課題の共有	3/3健保	他健保の状況を見られるため相互に良い刺激を得られた
3.効果的な保健事業のノウハウ共有	1/3健保	他健保の参加者募集方法などが参考になった
4.事業規模拡大による質の高い効果検証	3/3健保	自健保と全健保の2種類の集計結果を確認できることにより、事業成果を把握しやすかった
5.その他	2/3健保	健保間コミュニケーションが図られ情報共有が進んだ

5. 本モデル事業に参加してみた感想

○参加者数も想定以上に集まり、大成功であった。
○他健保の参加者数獲得状況や継続状況を随時確認できるため、お互いに良い刺激を得られ、全体としての成果獲得に繋がったと考えている。

（古河電池健康保険組合）

○参加者募集期間～実施期間を通して、他健保の実績を確認できるのは良い。
○参加者から、このような機会を年2回設けても良いのでは、と意見をもらった。（予算的に難しいが）

（エーアンドエーマテリアル健康保険組合）

○事業としては成功と言って良いと思う。景品があったためか、他の保健事業に比べて参加率が高かった。

○アンケートで良いコメントを得られていることが最も良かったことと言える。
例：「毎週メールを送ってくれたので、入力忘れがなくてよかった。「済」とついていたのも良い。コラムを読んだのか、読んでないのか、とかがすぐにわかった。とてもよくできた企画だったと思います。」

（三菱鉛筆健康保険組合）

○参加者の7割以上が減量に成功したことは立派な成果。参加者のアンケートも好評で、成果も十分なので、今後の展開にあたっては、スタート時のアピールでより参加者数を拡大してもらいたい。

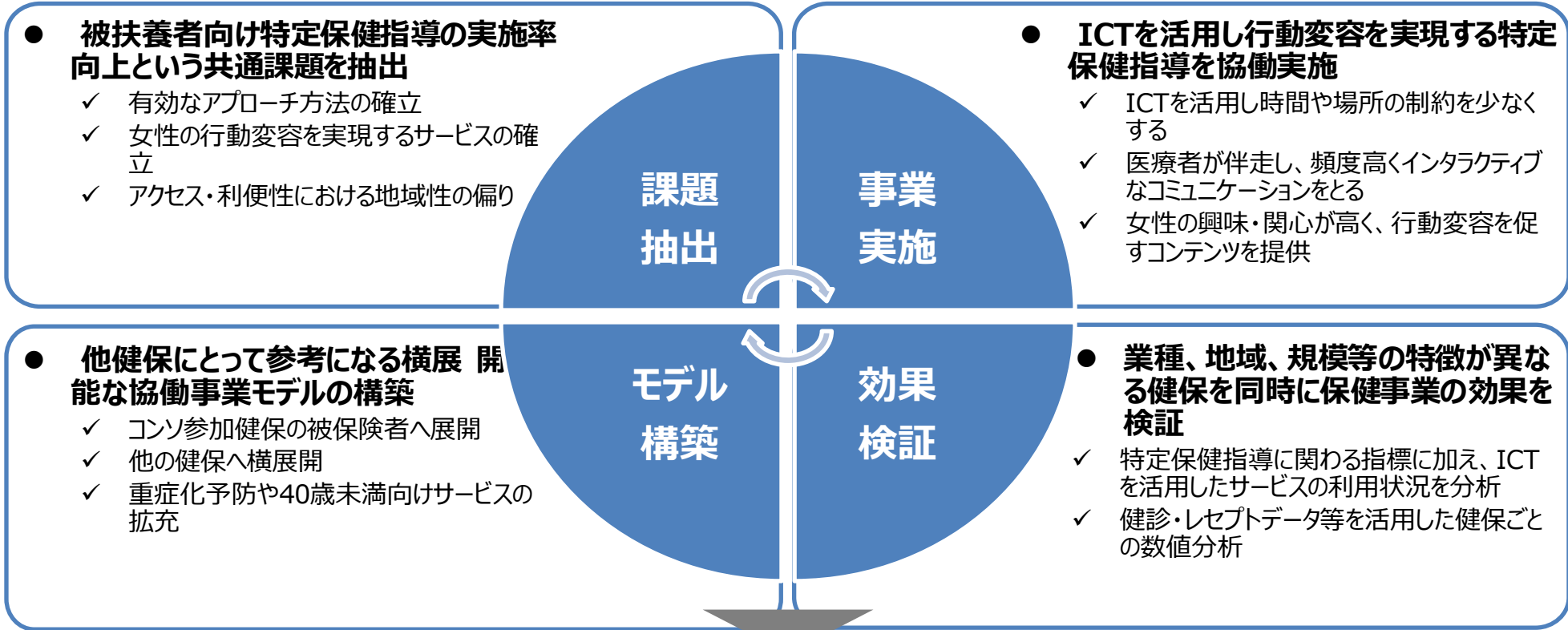
○特定保健指導は硬くかしこまった雰囲気だが、今回の「ちょこやせ」くらいが軽くて取組みやすいと感じる。健保連神奈川連合会の共同事業としても進めていきたい。

（健康保険組合連合会神奈川連合会）

みずほ健康保険組合の例

1. 事業の目的

- ・被扶養者の特定保健指導実施率向上という**共通課題の解決**に向け、ICTを活用し行動変容を実現する特定保健指導を協働実施し、同時に効果を検証することで、他健保にとって参考になる**横展開が可能な協働事業モデルの構築**を目指す。
- ・上記を通じ、**女性が興味を持ち、継続しやすい**魅力的な特定保健指導の提供という次世代型保健指導の実現に挑戦する。



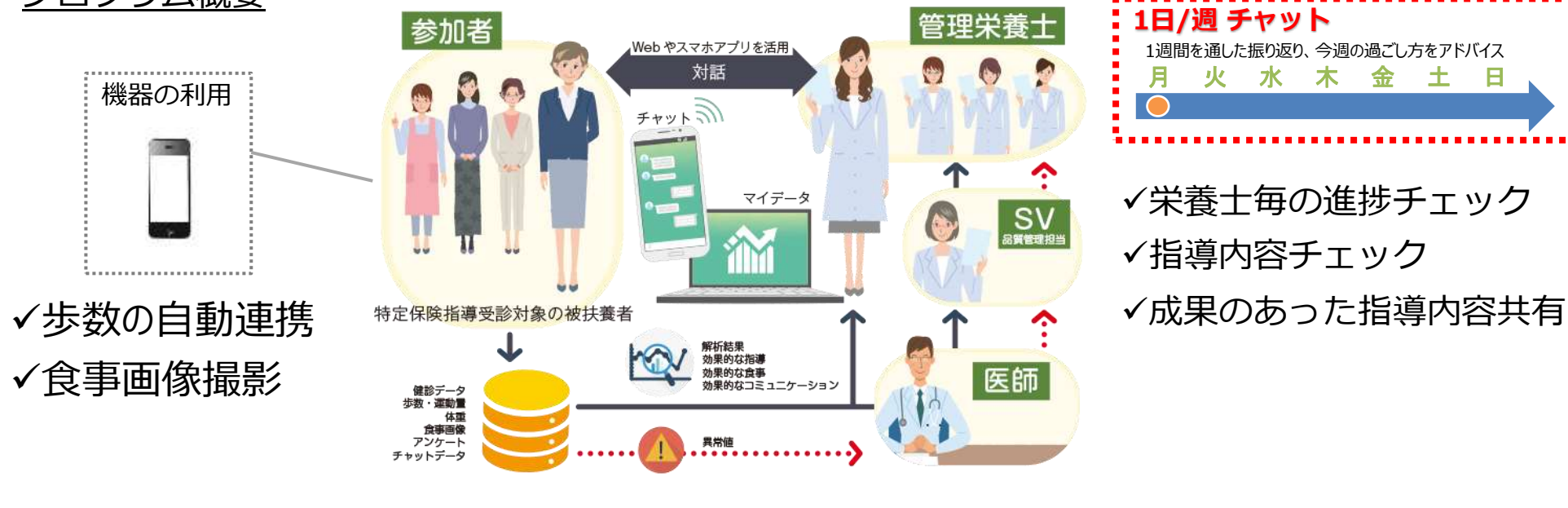
女性が興味を持ち、継続しやすい魅力的な特定保健指導の提供へ

－次世代型保健指導の実現への挑戦－

2. 事業内容

- スマホアプリ（チャット）を活用した、**管理栄養士による伴走型**の特定保健指導を実施する。
- 被扶養者向け、かつ、週1日程度の**頻度の高いコミュニケーション**で**無理なく体重減少**を目指していく。

プログラム概要



使い慣れたLINEによるチャット



食事も撮るだけで、負担が少ない

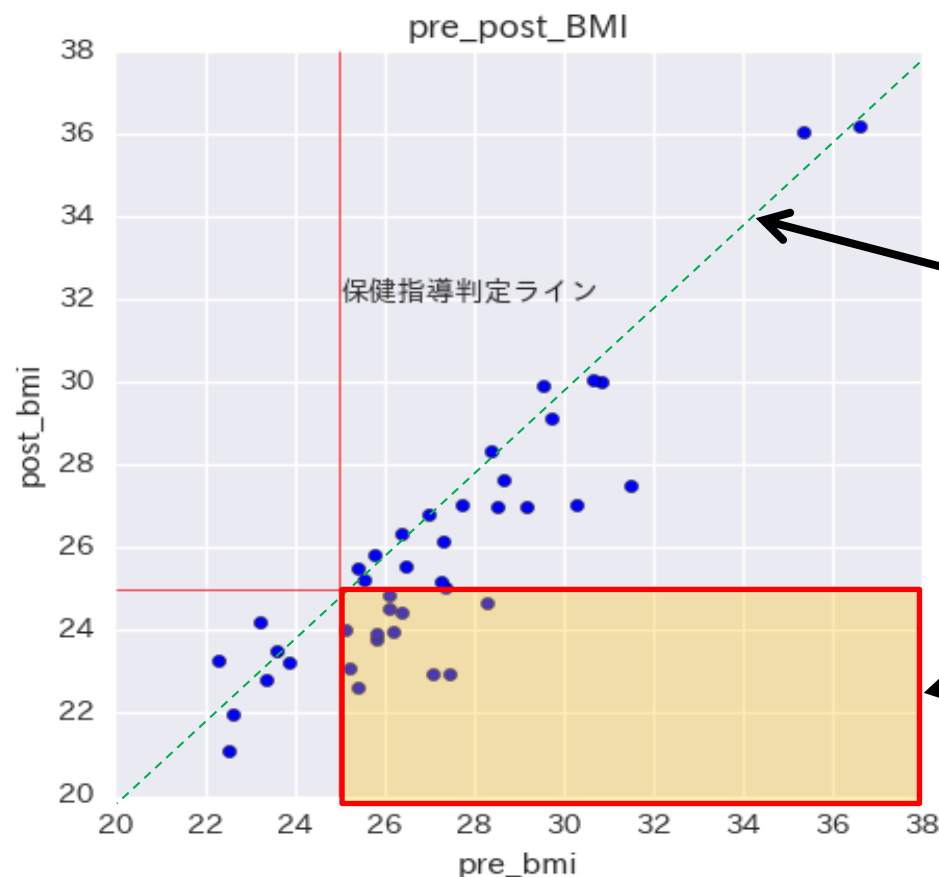


3. 主な結果

- 評価対象41名に対して、**35名（約85%）のBMI（体重）が減少中**である。
- また、指導前BMIが**25 kg/m²以上**であった34名のうち、**12名（約35%）が25 kg/m²未満**にまで減少中であり、**特定保健指導対象者の減少に寄与**している。

支援継続率は96%であり、途中離脱は少ない

アウトカム（体重減少に伴う特定保健指導対象者の減少）が期待できるプログラム



緑線より下にプロットされた参加者は、BMI（体重）が減少。（35名/41名）

開始前BMI平均値：27.1
直近測定時点BMI平均値：25.9
変化量：△1.26

BMIが25以上から25未満に改善。
（12名/34名）

3. 主な結果・活動報告

- ・ 目標30%に対し実績15.3%であり、いわゆる自然体※で案内した場合、**15%程度の応募率**である。
- ・ 40歳代の応募率が高いが、**60歳代でも10%程度**の応募率が期待できることがわかった。

※いわゆる自然体：リーフレットに加え、一部の方に電話勧奨参加を実施する案内方法。なお、参加者のインセンティブは提供していない。

40歳代は20%、50歳代は15%、60歳代は10%程度の応募率

合計	案内者数	応募者数	応募率
40歳代	208名	40名	19.2%
50歳代	245名	38名	15.5%
60歳代	194名	21名	10.8%
合計	647名	99名	15.3%
再掲（40・50歳代のみ）	453名	78名	17.2%

（課題）魅力を伝え、応募率を向上する

スマホが使えずに不参加の方は2割程度

不参加理由	回答数(重複有)	不参加理由把握人数に占める割合)
スマホを持っていない	23	15.6%
スポーツクラブ等で指導を受けている	15	10.2%
スマホの操作が不安	9	6.1%
今回は参加を見送る	9	6.1%
仕事や子育て、親の介護等で多忙である	8	5.4%
医療機関等で治療を受けている	7	4.8%
自力で改善する	7	4.8%

* 架電の結果、不参加となった人数のうち、不参加理由の記録のあったものを対象に集計した

（課題）対面型を案内し、希望者を逃さない

好事例 : 49歳

◀ 前の期間

2017.12.09(土) ~ 2018.03.08(木)
平均 61.7 kg

次の期間 ▶



スタート

来週、結婚式に出席するからそれまでは、間食止めるけどそれが過ぎたら間食再開しますと発言あり。
ダイエットを継続するモチベーションが低かった。

課題

朝食抜きだったので、3食を食べましょう!! からの指導が開始。
結構式への出席が終わると、毎日の間食再開。1日にアイスクリーム3つの日も…
自身で決めた行動目標を守れず、間食が大きな課題に。

対策

血糖値を上げない食べ方の指導
朝ご飯がジュースだけになる理由が、忙しいからとのことだったので、忙しい中でも手軽につまめるナッツやチーズを用意してもらい1つでもつまむように伝えた。

間食対策
間食をなくすのはストレスに感じると考えたので、食べてOKということで、間食の内容を低糖質の商品やレシピの紹介をし、見直し。また間食する代わりに、食べるタイミングや、食べた後のフォローを伝達。

結果

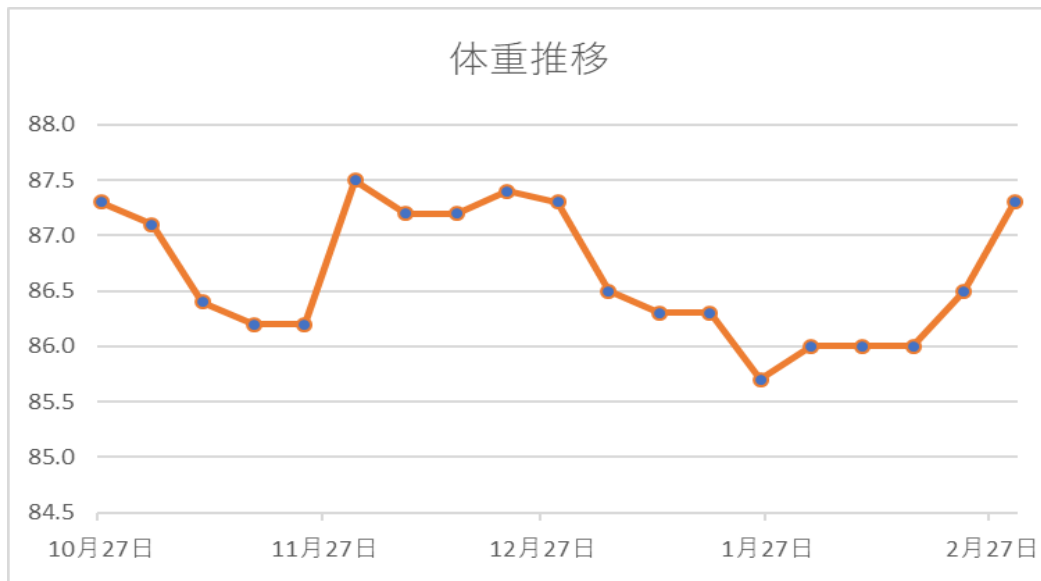
朝ご飯の内容に変化あり朝食の習慣化。
糖質の摂取が多い日は歩いて消費をして、食べたらずく!! が習慣になった
68.6kg→60.7kg
(4ヶ月)

＜本人のコメント抜粋＞

今マカオにきています。食べてしまった分歩こうと昨日は4万歩行きました(^_^)/今日もなるだけ歩いて移動します。
→お餅の食べ方教えて頂き、大変楽しみになりました。食べ方一つで、本当に血糖値の上がり方が違うのだと実感しております。
→先日薬局に行った際に血管年齢を計ったのですが、A判定で、実年齢よりも7歳若いと出ました。
今年の2月に測定した時はB判定だったので、低糖質ダイエットのお陰ですね(*^^*)

難事例：65歳

体重推移



指導内容の実践取入れが難しく、なかなか改善が進まないが、気力が少しずつアップし、前向きな発言も見られてきた。

体重：87.4kg→87.6kg
BMI：35.8→35.8

スタート

ダイエット経験が豊富だ、継続せず、リバウンドしてきた。アレルギーや好き嫌が多く、ストレスで暴食傾向。膝が痛いので運動ができない。

課題

開始直後から、忙しさやストレスによる体調不良を訴え、あまりダイエット集中できない状態になった。上記を理由に行動目標も実践できず。

対策

食事の置き換え提案も、「アレルギー」や「胃に合わない」、「歯の治療中」などの理由で取り入れを断られる。提案への回答はきちんと返答があり、愚痴なども言ってくれるので、寄り添いながら信頼関係を構築しゆっくりとアプローチをこころみる。

結果

4か月経過してジム通いを始め、気力が少しずつアップ。前向きな発言も見られてきた。
87.4Kg→87.6Kg
(4ヶ月)

<本人のコメント抜粋>

いつもありがとうございます。おかげさまで●●での運動量を段階的に増やして、少しずつ体力＆気力アップに繋がっています。なんだか食欲もアップして体重も増えていますが、体は軽くなって動きやすくなりました。精神的にも余裕が出てきたので、出来るだけ時間をかけてしっかり噛むことを目標にして頑張ります。

4. 協働開発・実施のメリット

- ・ 協働開発のメリットは大きく、各健保が個別実施する事業の特性上、協働実施のメリットは小さかった。

協働開発のメリット

期待したメリット

民間事業者の巻き込み
ターゲティングされたコンテンツ

横展開がされやすく
質の高い保健事業モデル

特定保健指導開発での
安心感やサービス拡張性

実施した評価

○複数健保が参加し、サービス事業者の巻き込みを実現
○被扶養者に絞り込んだアプローチ、コンテンツを開発

○偏りの少ないデータを共有・活用し、サービスの質を担保した開発を実現
▲複数健保に同一サービスを同時に実施したが、参加勧誘の電話対応などは、組合によってばらつきあり

○事業運営委員会を三回実施し、情報共有や透明性の担保を図った
○各参加健保からさらなるのサービス拡張の提案あり（被保険者への展開等）

協働実施のメリット

期待したメリット

事業実施の効率化

質の高い効果検証・改善

コストの抑制

実施した評価

▲新たに事務局の事務等が発生したこと等により、効率化には至らず
今後、各健保は個別にサービスを利用

○参加健保間の特性やアウトプット・アウトカムについての比較検討、分析を実施

▲協働モデルを維持するほどのコストの抑制は実現できず
今後、各健保は個別にサービスを利用

5. 本モデル事業に参加してみた感想

- 全ての参加健保から「得たノウハウが大きく、今後の保健事業運営の参考になった」との感想を得た。

被扶養者の特定保健指導等について

これまで対策できなかった
被扶養者にアプローチする
方法を確立できた

被保険者経由での
勧奨等個人情報の取扱い
を整理していきたい

ICTを活用した特定保健指導等について

他のICTを活用した
サービスと比較検討
することができた

スマホを使えない層に
対する対策が欲しい
(タブレット貸出等)

参加健保間の情報共有等について

異なる地区・業種の
健保間で情報共有
することができた

事業運営委員会等で
もっと情報共有できる
ようにして欲しい

本協働事業（コンソーシアム）に参加して

得たノウハウが大きく、
今後の保健事業運営の
参考になった

被保険者の
特定保健指導にも
展開していきたい